

アイアム

「アイアム」ってご存じですか？

～自分の考えを自分の言葉で話す、そんな生き方がしたい～
…そんな意味を込めて

Vol.

39



平成20年度「男女共同参画社会づくり」小・中学生 図画・ポスターコンクール
中学生の部 金賞

特集

スウェーデン フランス の男女共同参画・少子化・福祉対策にみる

スウェーデン 男女共同参 福祉対策にみ



アメリカのサブプライム問題に端を発し、今、の多くは景気対策もさることながら、年金、医



先般、「福井環として、男女
ンランド・フラン
察・研修に赴き
これらの国々
のまま採り入れ
平等主義、人間

街角あれこれウォッチング



ストックホルム
(スウェーデン)

人口70万の静かなたたずまいの街で、朝ホテルの近くのスーパーを覗いてみました。生鮮食品のコーナーではラップの包装がされないままむきだしで売られていました。欧州では、どこでも見られますが、環境に優しい光景だと感じました。



包装されていない生鮮食品

視察先概要

男女平等はゆるぎない基本的人権 —非営利団体—

マン・フォー・ヤムヒヤレット(スウェーデン・ストックホルム市)



なごやかに終始した懇談

男女共同参画推進コンサルティング会社の専門家2名から話を聞き、その後アットホームな雰囲気の中でなごやかに懇談した。

● 北欧の厳しい風土の中で男も女も対等に力を出してきた歴史を踏まえて、1980年に

「男女平等担当局」が設置され、1992年に「平等法」が成立した。

- 一人ひとりの生活を大事にし、男女が平等に助け合って生きることが大切とされており、その根底には「平等の基礎は、女性も経済面で男性に依存しない」との意識がある。
- 大臣は男女同数、市議も4割は女性が占め、企業も格差解消に努力しているが、EUとの連携が課題であり、現在も精力的に取り組んでいる。

安心して過ごす老後を —高齢者総合福祉施設—

ハガゴーデン

(スウェーデン・ハニンゲン市)



ケーキと笑顔をいただいた食堂

ストックホルム市から約20キロ。緑豊かな環境の中の公営施設で、担当者や入居者の方々との懇談やふれあいの中で、ゆったりと安心して過ごしている様子うかがえた。

- 老人ホームやショートステイ用住居54室、認知症用グループホーム32室などを有する高齢者総合福祉施設。介護士、準看護師、理学療法士、作業療法士、料理人など120名のスタッフがケアしている。
- 租税等の負担率が70%にも達している高負担の国だが、笑顔の絶えない柔和な高齢者の方々を目の当たりにすると、文字通り「高福祉の国」だと実感させられた。

長時間保育もOK —空港企業内保育所—

グローブ・トロッター保育所(フランス・パリ市)

少子化対策が着実に成果をあげているフランス(合計特殊出生率2.0)では、当然保育所対策にも力を入れており、そのモデルとなっている保育所について空港管理会社の社会福祉プロジェクト担当者から説明を受けた。

- 国、3つの県、空港内の多くの企業(約700)、そして教会などが連携して、月延べ140名の園児を、母親の勤務に合わせて5時半から22時半まで(土、日は7時から17時まで)預かっている。
- 保育料は、親の所得により決められるが、公立(市立)の保育園とは大差がなく、看護師の資格を有することが義務づけられている園長のもと、保育士、心理指導員、社会福祉コーディネーターなど多彩な専門家集団(35名)が保育に携わっている。

・フランスの 画・少子化・ る



日本も景気が悪化しています。このような状況の中、国民療、介護などの先行きに一層不安を募らせています。男女共同参画ネットワーク発足20周年記念事業の一共同参画・少子化対策・福祉の先進地スウェーデン・フィスへ「北欧の翼」(団長 高田訓子氏 団員17名)が視察しました。

とは、歴史、文化、風土、思想が違い、その手法などをすることは無理と思われませんが、底辺に流れる人道主義、(個性)尊重の意識は学ぶべきとの報告がありました。

政治は生活そのもの —公的諮問機関—

パリテ監視委員会(フランス・パリ市)

事務局専従の女性報道官より、男女平等にかかる幅広い分野からの歯切れの良い説明を受けた。

- 1995年にシラク大統領により設置された公的諮問機関で、33名の専門家集団が男女平等についての調査、研究、報告などを行っており、2000年成立の「平等法」の具体化を進めている。
- 女性が政治に関わらないと生活も変わらないとのスタンスで、女性たちのネットワークを拡充し、法律や制度の整備にも力を注いでいる。



ハッパをかけられまくった話し合い

今回の「北欧の翼」では、主に男女共同参画、少子化、福祉に焦点を当てましたが、それぞれの街を歩きますと、環境や自然保護などいろいろな視点からの観察もできました。



ヘルシンキ
(フィンランド)

緑豊かな人口57万の首都ヘルシンキでは路面電車(軌道幅1m)が無料で走っており、環境にやさしい市民の足として親しまれているようです。ただ、日本と同じように民間委託が真剣に検討されているとのことですから、厳しいのは日本だけではないのですね。



路面電車が愛されている街



パリ
(フランス)

人口約220万の花の都、芸術の都パリは充分堪能できましたが、環境保護対策の一環として、排気ガスを減らすためのマイカー規制、バス専用レーンの拡大で、交通渋滞や駐車場不足はかなりなものです。団員の私たちもその余波で楽しみにしていた行動がとれずに少々がっかりもしましたが、環境を守るための痛みですから、我慢せざるを得ないのでしょうね。



交通渋滞でブーイング

■ 北欧の翼に参加して(一口感想)

10月2日から8日までの限られた期間でしたが、目的意識を持っている男女での「北欧の翼」でしたから、それぞれがいろいろな思いを持ち帰りました。参加者の感想文の中からいくつかピックアップしてみました。



高福祉・高負担 ～未来のしあわせのために～

北欧では、誰にでも起こりうる病気、そして誰にでも確実にやってくる老いなどについては、社会全体で支え合うという考えが深く浸透しており、そうした仕組みを人々が創りあげたのです。「安心」という形で自分に返ってくるのだから、高い税金も仕方がないと達観しているのです。北欧に近づくために、日本の福祉はどこに接点を求めればいいのでしょうか。



男女共同参画 ～女性の考えを政策に～

北欧でもフランスでも、男女平等を基本的人権として捉えており、「男女共同参画」としてことさら意識していない感じが強いですね。「生活を守り向上させるには、地域・職場・政治の場で男女平等を足がかりにして頑張らなくてどうするのですか」とハッパをかけられました。



親との訣別 ～徹底した個人主義～

人生を通して一人ひとりの個が尊重されていますから、成人すると親の元を離れて独り立ちします。このことが、男女共同参画・少子化・福祉などの諸問題に深く関わっているのです。日本での軌道修正は容易なことではないですね。



パリの街並みの美しさ ～佐伯祐三の絵そのままの風景～

初めてパリを訪れました。これまで行ったロンドン、ニューヨークそして東京と同様に、大都会はどこも大差ないとそれほど期待をかけていなかったのですが、街の美しいたたずまいには、圧倒され魅了されました。同系色の同じ高さで統一されて調和の取れた街並み。放射線状に伸びる道路。街角を曲がると、そこには私の大好きな佐伯祐三の絵そのままの風景がありました。

男女共同参画・少子化等の国際比較

No.	項目	日本	フランス (パリ)	スウェーデン (ストックホルム)	フィンランド (ヘルシンキ)	備考				
1	人口(万人)	12,733	6,218	899	530	人口が少ないほど政策が浸透(?)				
2	人間開発指数(HDI)	8位	10位	6位	11位	平均寿命・教育水準 国民所得				
3	ジェンダー・エンパワ ーメント指数(GEM)	42位	7位	2位	8位	国会議員、専門職 管理職の女性割合				
4	国会議員に占める 女性の割合(%)	45/ 480	9.4	70/ 574	12.2	/	47.3	84/ 200	42	2007年
5	男女間の賃金格差 (男性:100)(%)	67	87	88	80	2005年以前の 日本は約50%				
6	家事・育児時間に占 める男性の割合(%)	13	34	38	2001年以前の 日本は5%					
7	合計特殊出生率	1.32	2.0	1.85	1.84	2006年				
8	高齢化率	20.1	16.3	17.2	2005年					
9	消費税(%)	5	19.6	25 食料・交通費12% 書籍・新聞6%	22					
10	国民負担(租税+ 社会保障負担)	37.7% (2006)	61% (2004)	70.2% (2008)		福祉対策の充実のため 国民に不満余りなし				

(内閣府・財務省資料より)



花の都パリのエッフェル塔

女性の視点は社会に活かされていますか ~街の声を聞いてみました

『北欧の翼』の視察研修からもみられるように充実した国民生活をめざすには、かけ声だけでなく立法や行政で裏づけのある男女平等が推進されなければなりません。今は、身近な福井市の政策決定に関する場でも下記グラフのように女性の数が大変少ないのが実態です。



○男女共同参画社会のあり方が全部いいとは思っていません。男性は男性の仕事、女性は女性の仕事をやればいいし、意見もどんどん言えばいいでしょう。
(40代男性 農業)

○会社では女性の上司、男性の部下でも、それぞれの視点を尊重してうまく仕事をしています。普段は政治のことは話題にしません、政治番組をよく見て選挙で役立っています。
(50代女性 会社員)

○今は社会の中で女性の視点が充分生かされていると思います。経済界などは消費者動向を重視していますから、女性の考えを無視してマーケットは成り立たないでしょう。政治については、確かに女性議員は少ないですね。女性はもっと政治に関心を持ち、積極的に声をあげていかななくてはいけないと思います。日本は男性中心の社会が長かったから「女性には子どもを産んで育ててもらいたい」という人が、まだまだ残っているでしょう。それが女性の社会や政治に出にくい環境になっていると思います。
(30代男性 レストラン勤務)

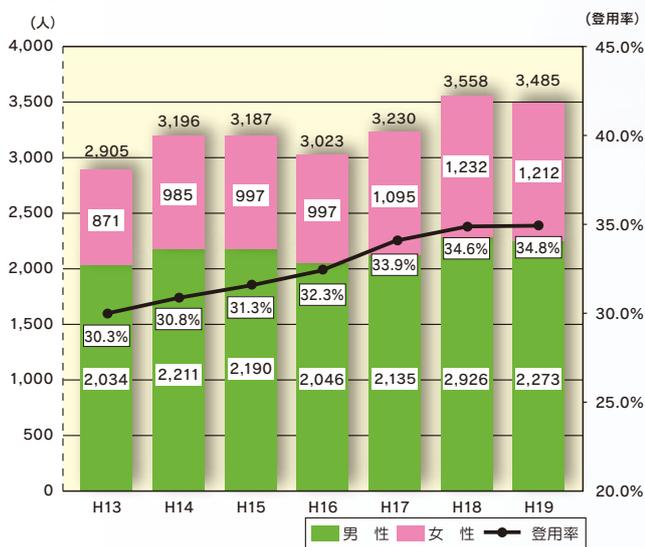
○現在の職場では女性の視点も大切にされていますから、男性との差別は感じたことはありません。以前の職場では男性職員しか名刺を持たせてもらえず、入社時にかく然としたのを覚えています。町内会などは親に任せてあまり参加していませんが、地域でボランティア活動をしている上では、特に女性だからとやりにくさを感じたことはありません。政治家は男性が多いけれど、女性の意見もよく聞いて政治に反映しているのではないのでしょうか。
(30代女性 公務員)

○せっかく権利があるのに、女性は積極的に意見を言わない。男性は女性の意見を取り入れたいのに残念です。
(70代男性 まちづくりや公民館で活動中)

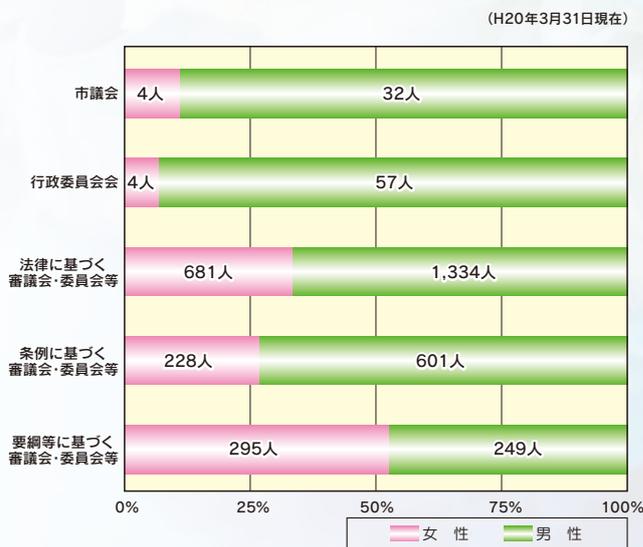
○政治家がひとりの人間として出てくれば、私は男性でも女性でも差別なく、自分が賛成する意見の人を選びます。
(40代女性 農業)

○職場では女性もどんどん意見を出し、男女それぞれの視点を生かして仕事をしています。政治では女性が少ないですね。日本という国の風土かもしれません。
(60代男性 公務員)

福井市の審議会・委員会等における女性登用率の推移



平成19年度福井市の女性の区別別状況



「婚活」の必要な時代

男性の自分みがき

学生の「就職活動=就活」と同じように、よりよい結婚をしたいと望むならそのために積極的に自分を磨き、結婚活動に励むこと=「婚活」が必要な時代になってきました。

かつては、「花嫁修業」という言葉に見られるように女性の活動をさすことが多かったようですが、最近では、とりわけ男性の「婚活」が必要であると主張する関係者も多くみられます。

NPO法人花婿学校代表、大橋清朗さんもその一人です。

福井市が主催する自然な出会いをもとめて男女が参加する「スウィートハートパーティー」の中で、男性のためのセンスアップ講座の講師をつとめた大橋さんをレポートしました。

——30代後半の男性が1年間で結婚できる確率は3%、40代になると1%に減るんです。

また、未婚男性は、既婚者よりも寿命が9歳近く短いというデータもあります。だから、男性は、もっと必死で「自分磨き」と「出会い」のための活動をすべきなんです。

——「出会い」には3つの出会いがあります。

1つは、男女の出会いパーティーやインターネット、お見合いなど、「システム」化された出会いです。

2つめは、親・親戚、職場の上司、友達など、身近な人から「紹介」された出会いです。

3つめは、「コミュニティ」で、地域活動やNPO、趣味の活動など、共通の目的によって人が集う場での出会いです。「コミュニティ」では、最初に同じ目的や共通の価値観があるので、年齢差のある出会いも可能になりますが、「システム」は、条件重視であり、第一印象がかなり大きなポイントになります。私が主に指導するのは、「システム」での活動です。

——女性と初めて出会った時の第一印象をよくするために、より簡単にできることは、「表情」と「反応」です。「笑顔」の素敵な人は、何よりも好印象をもたれます。また、相手のために気遣う心をもって反応できることが大切です。第一印象を上げないと確率(成功率)は上がりません。

——「表情」は、筋肉ですからやわらかくなります。

ただし、すぐにはできません。警戒心を取り、相手に安心感を与える自然な笑顔を日頃から意識し、自分のものにしなければいけません。

——パーティーのポイントは、やはり男性から声をかけることです。

最初は、質問になりますが、質問ばかりでは会話になりません。自己開示しないと相手も自分を見せってくれません。初めて出会う男女のパーティーの特徴として、男性は特に「容姿ねらい」にいく傾向がありますが、それでは可能性は低いと言わざるをえません。まずは、相手との共通点、自分と合う要素を見つけることです。自分に関心を持ってくれる人を探す作業が重要になってきます。

——自分と反応が近い人を探したら、次の段階は、1対1の環境をつくることです。

最初はグループでも2対2から始めてもいいですが、結果として1対1の環境に誘う勇気と努力が必要です。その際にも相手のことを一番に気遣うことが大事ですね。外見と内面をトータルに磨き、出会いのチャンスを増やしてください。



大橋 清朗(おおはしきよはる)

結婚コンサルタント
NPO法人花婿学校、代表
これまで1000名以上の未婚男性に結婚支援講座を開催。大手結婚情報サービス会社や行政、各団体で講演を行い、未婚問題解決のために幅広く活動している。マスコミにも多数登場。

著書

『また会いたくなる人 婚活のためのモチ講座』
(講談社)



婚活を応援する活動

仕事柄、若い人たちとご一緒する機会が多いことと、なぜか昔からご近所の方から相談や頼まれごとをされることがしばしばあった。これらが自然に私が婚活を応援するような条件になったようだ。

しかし、私の婚活応援活動はたまたま頼まれてという程度のもので、決して多くはない。その少ない経験の中でも「結婚相手を探してほしい」と頼みに来られるのは、ほとんどが30歳を少し超えた男性で、どれも「息子に嫁を」という親御さんの切なる思いが伝わってくる。

失敗例 —— K君 (35歳) 会社員

母親から何とかお嫁さんをと依頼された。K君の職場は女性の多いところなので、出会いのチャンスがいっぱいあるのではと本人に聞くと、「同じ職場でうまくいかなかったときのことを思うと、心配で声はかけられない。」とのこと。彼の希望は「大卒で、自分の仕事を持って、自立している女性」という。ちょうど、手元にあった公務員で専門職のS子さん(30歳)がいいと思い、双方に写真と履歴書を見せた。二人とも「会ってみたい」ということなので、夕食をとりながらの顔合わせをセッティングした。当日はお互いに趣味の話などをしながら楽しそうに見えた。だが翌日、K君の「おつきあいしたい」に対して、S子さんからは「もう少し一人でいたい」と断りがあった。

その後もK君には何人か紹介したが、まとまらない。K君は安定した職業を持ち、堂々とした体格で、カッコいい青年だと思うのだが、何が原因なのか今も私の悩みの種である。

成功例 —— M君 (34歳) 公務員

自分をしっかり持った好青年であるが、30歳過ぎまでいい出会いに恵まれなかった。本人からも母親からも「早くお嫁さんを探してほしい。35歳までには結婚したい。」と頼まれ続けていた。彼の希望は、「自分と対等に何でも話し合える人がいいから、できれば大卒で、優しく仕事を持ち、家庭もきちんとやってくれる人」と、なかなかハードルが高かった。

何人かを紹介したが「ウン」と言わない。そのころ、A子さん(28歳)が「30歳までに結婚したいので誰か紹介してください。」と言ってきた。彼女は家庭の事情で大卒だが、仕事を持ち、多くの習い事もやっている頑張り屋さんで優しい女性だった。彼女ならM君にピッタリだと思い、大卒ではないけれどステキな人だからぜひ一度会ってみるよう勧め、お見合いをした。一度目から会話が弾み、M君は一目惚れし、その場でぜひ交際をしたいと申し込んでメール交換までした。一ヶ月に一度はM君に進捗状況を報告してもらうことになり、お見合いは大成功。

やがて一年半の交際を経て結婚した。その間、ケンカ別れなどがあり順風満帆だったわけではないが、結婚後にかわいい赤ん坊を抱いて挨拶に来てくれたときは、心からうれしかった。

経験の中から言えることは、男性が乗り気でおつきあいしたいという希望があっても、女性が考えさせてほしいと言ってくることが多い。女性の方がゆったり構えて相手を選んでいることがよく分かる。

おつきあいが始まって、すんなりといくものは少ない。連絡が途絶えて、もう交際をやめたのだろうかと思っていると、「ありがとうございました、お陰様で結婚しました」と驚きの報告を受けたりする。

今も私の手元には、知人やご近所に頼まれた「履歴書」が何通かあるが、その人達に喜んでもらえるような結果はなかなか出せないのが現状である。



Book Book Book



産める国フランスの子育て事情

— 出生率はなぜ高いのか —

牧 陽子 著

発行: (株) 明石書店 定価: 本体1,600円+税

牧 陽子

1994年東京外国語大学卒業、NHK入局、退職後パリに留学。帰国後、朝日新聞社に入社、記者。パリと東京で出産・育児を体験。フランスには留学生時代と育児体験で計4年間の滞在。

フランスは、女性の労働力が高く、出生率がEUトップの水準にある。それは、国や企業の手厚い支援や理解があるからである。男女が対等に「仕事も家庭も」が可能な社会なのだ。年5週の有給休暇、週35時間労働、週4日のごく普通の短縮勤務などである。その他にもそれぞれに合った働き方が選べる。国の手厚い家族手当、保育所の定員は少ないもののそれに代わる保育ママやヌヌ(ベビーシッター)への援助制度などの多様な託児方法がある。

しかしそれだけではない。それは何よりも幼い子どもを他人の手に託す母親を当たり前としてみるメンタリティの成熟した社会がその要因であると著者は考える。また、この国の子育てのキーワードが平等であるということ。「男だから女だからではなく、自分流で生きる対等な関係だから、仕事も育児も二人でする」のだという。だから様々な制度や社会的支援を上手に使いながら、仕事と子育てが両立していけるのだ。

もちろん、本書ではこういう好条件に恵まれた人ばかりではないこと、ここに至るまでの女性達の闘い、理想と現実の間で格闘している女性達についても語られている。

一方、日本では3歳児神話が否定されてもその影響はいまだに根深い。経済的支援策が進み、男女雇用機会均等法ができて、両親が平等に子育てに参加するためには、ワーク・ライフ・バランスの実現が必要であり、そういう社会にならなければ出生率は上がらないと著者は言う。

今回の表紙



足羽第一中学校 1年 河合 愛恵 さん

河合さんは小学校時代から、5年連続で当コンクールに入賞されています。今回の作品は「男でも女でも、自分のやりたい仕事は何でもやれるはず。男女が協力し合ってよい社会をつくりたい。」と思って描いたそうです。そして市役所へ行った時、女性もテキパキお仕事をしていたので、自分もあんな風になりたいと思ったそうです。家はにぎやかな6人家族、現在陸上部で毎日、夕方遅くまで練習しているので、なかなか家のお手伝いができないと残念そう。きちんと挨拶のできる明るい少女でした。

パートナーからの暴力ホットライン

夫婦や恋人などからの**身体的暴力・精神的暴力・経済的暴力・社会的暴力・性的暴力・子どもを巻き添えにした暴力**に対し、下記機関があなたを支援します。

福井市男女共同参画・子ども家庭センター 相談室		福井市手寄1-4-1 (アオッサ5階)	0776-20-1541	水曜日～月曜日 (休所日: 毎週火曜日、12/29～1/3)	9:00～18:00
支援センター 配偶者暴力被害者	福井県生活学習館(ユウ・アイふくい)	福井市下六条町14-1	0776-41-7111 0776-41-7112	火曜日～日曜日 (第3日曜日、国民の祝日の翌日を除く)	9:00～17:00
	福井県総合福祉相談所 女性相談課	福井市光陽2-3-36	0776-24-6261	月曜日～金曜日	8:30～17:30
	福井健康福祉センター 福祉課	福井市西木田2-8-8	0776-36-2857	月曜日～金曜日	8:30～17:30
福井県警察本部 女性被害相談電話		福井市大手3-17-1	0120-292-170 0776-29-2110	月曜日～金曜日	8:30～17:30
女性の人権ホットライン		福井市春山1-1-54 (福井春山合同庁舎)	ゼロナナゼロのホットライン 0570-070-810 (PHS、IP電話からはつながりません)	月曜日～金曜日	8:30～17:15
福井県人権センター		福井市手寄1-4-1 (アオッサ7階)	0776-29-2111	火曜日～金曜日 第2、4日曜日とその前日の土曜日	9:00～17:00
NPO法人 福井被害者支援センター		福井市文京2-13-5	0120-783-892	月曜日～土曜日 (祝祭日を除く)	10:00～16:00

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」(DV防止法)があなたを守ります。

編集後記

日本はついに人口減少社会に入りました。このままでいけば、高齢者が急増しそれを少数の若者が支えなければならない時代となるのです。先頃、「北欧の翼」が高福祉、高負担しかもGDPは世界で上位の北欧を主に、視察にいきました。耕地面積も少なく、高齢化率も高い国柄ですが、みながいきいきと安心して暮らしているとの報告を受けました。今回、いま日本が抱える超高齢少子化問題の将来を重ね合わせ、特集といたしました。

※この情報誌をご希望の方は、男女共同参画・子ども家庭センターまでご連絡ください。

企画・編集 / アイアム編集委員

岩木 弥恵子 田中 芳枝
戸出 瞳 畑岡 久子
藤井 輝雄 蓮花 慶子
(50音順)